資　料　2

「東北圏のみらい」の提言、活躍する若者世代の公開座談会を開催しました！

東北圏

- 東北圏広域地方計画推進室では、今後概ね10年間を計画期間とした第三次東北圏広域地方計画策定に向け、東北圏の将来像を描くため、若者世代の公開座談会を開催しました。
- 座談会では、東北圏７県（青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島・新潟）で活躍されている各分野の若者世代の方々から、これからの東北圏のあるべき姿や将来像等について活発な意見交換が行われました。
- 座談会の意見を踏まえ、東北圏の将来像を描き、令和６年冬の第三次東北圏広域地方計画中間とりまとめの公表に向け、検討していきます。

開催概要

〈 https://www.thr.mlit.go.jp/kokudo/zadankai/2024zadankai.html 〉

＜日　時＞ 令和６年３月18日（月）14：00～16：00
＜場　所＞ 侍屋敷 大松沢家（岩手県胆沢郡金ケ崎町）

＜参加者＞（コーディネーター）
石井 重成（青森大学社会学部 准教授）

（パネリスト）
- ○青森県　安藤 巖乙　（十和田奥入瀬観光機構地域観光マネジメント部長）
- ○岩手県　深津 咲奈　（北上巣箱代表）
- ○宮城県　渡邊 享子　（(株)巻組代表）
- ○秋田県　松橋 拓郎　（(株)大潟村松橋ファーム代表取締役）
- ○山形県　伊東 優　（ツキノワ合同庁舎代表社員）
- ○福島県　小林 奈保子（任意団体なみとも代表）
- ○新潟県　長野 美鳳　（デザイナー×キッチンカー運営）

＜プログラム＞
- 開会挨拶（東北圏広域地方計画推進室長）
- 話題提供（国土政策局 広域地方政策課）
- パネルディスカッション
  （テーマ１）東北圏の魅力と課題
  （テーマ２）わたしと東北圏の未来

＜後　援＞
岩手県、金ケ崎町、（一社）東北経済連合会

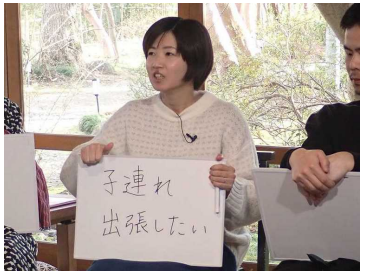
▲コーディネーター
石井准教授

▲会場の侍屋敷 大松沢家
（重要伝統的建造物群保存地区内）

▲座談会の様子（フリップトークを行いました）

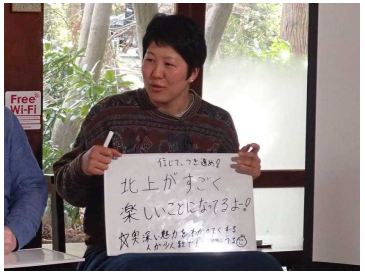
▲安藤氏
（雪は課題であり魅力）

▲伊東氏
（便利過ぎない東北に魅力を感じて）

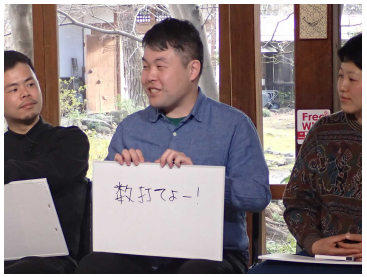


▲小林氏
（2024年には子連れ出張をしたい）

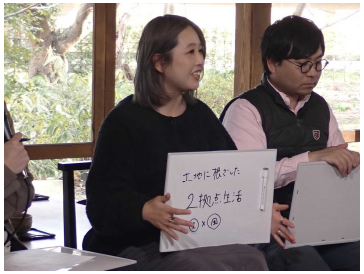
▲渡邊氏
（人の少なさも東北圏の魅力の一つ）



▲深津氏
（東北の魅力を深めた将来を描く）



▲松橋氏
（未来の自分からのメッセージ）



▲長野氏
（土地に根ざした二地域居住の魅力）

「東北圏のみらい」の提言、活躍する若者世代の公開座談会を開催しました！

東北圏

前半：東北圏の魅力と課題

■ 東北圏は、人の少なさが利点である。人口が減少しているからこそ、イノベーションや先進的なことができないのか考えていくべき。例えば、子育てする面では、子育て施設が貸し切り状態で使用できたり、学校でも１クラスの人数が都会に比べて少ないので教育支援が受けやすいなどが挙げられる。このような環境が強みであり、東北圏ならではの良さにつながっていると思うので、他の地域や世界へ発信していくべき。

■ 東北圏の密すぎないところが、課題でもあるが、逆に魅力にもなる。人口減少が進む中で、魅力や利点をみつけていく、ベストミックスな考え方や方針が必要になると思う。

■ 東北圏内にて、政令指令都市がある宮城県が代表的な見方をされやすい。しかし、芸術という面では、他の県も芸術的な発信を多数行っていて、宮城県は他県に勝てないのかもしれない。このような東北圏内のライバル視トークは本質的な問いであり、宮城県以外の県も全国に魅力等を積極的に発信し、認知度を高めていくことで、東北圏全体のイメージアップにも繋がると思う。

■ 東北圏では、子どもたちが土地に触れる機会が少なく、地元に愛着がないことが課題である。まず自分たちから地元に愛着を持ち、他圏域の人々に好きな箇所を発信していくことが大切だと思う。

■ 東北圏内の移動が不便なので、東北圏内の交通ネットワークの充実を図るべき。

■ 東北圏内は、他圏域にくらべて、方言の違いもあるので、内輪文化が根付いていると思う。特に、青森県や秋田県はパスポートの取得率が10パーセント程度しかないなど、東北全体で出国率が低い。このような、内輪意識を少しずつ解消していき、外に目を向けていくことが今後必要になると思う。

「東北圏のみらい」の提言、活躍する若者世代の公開座談会を開催しました！

東北圏

後半：私と東北圏の未来

■ 全国的に850万戸もある空き家が問題になっており、東北でも問題視されている。一方で、日本の田舎の空き家を安く買ってDIYしたいという外国人が増加しているので、そのような方々向けに空き家や土地を売り出していくなどの問題解決を打ち出す。このような、事業を通して外貨獲得に力をいれていく。

■ 町中に多目的トイレが少なくておむつ替えの場所が確保できない、子どもが会議中に泣いてしまうと遠慮してしまうなど、いまだに子育てしにくい環境や考え方が多く残っている。そのような社会の変化にみんなで慣れ、子育てをしながらでも仕事ができる雰囲気づくりを目指す。

■ 多くの人が土地に根ざした二拠点生活を送れるように、地域のイベント等に参加するなど、地域の人たちとのコミュニケーションをとりやすい環境の形成を目指す。

■ 都市のバランス感は変わっていくものなので、都市部で人口が増加しているからと慢心せず、常に危機感を覚えていかないといけないと思う。また、ポストコロナの方法ということも考え、時代、環境に合わせた生活様式や働き方、価値観などを柔軟に変えていくべき。

■ 東京だけに文化や人口が集中するのではなく、地方に魅力や焦点を当てて、目を向けてもらえる時代が訪れるよう努力していくべき。そのために、東北圏のアクセス性や観光事業を整備し、東北圏ならではの伝統やイベントなどを他圏域へアピールすることが大切である。

■ 東北圏のなかでも、ひとりひとりが自分らしいライフスタイルを実現できるように、教育機会や事業環境の整備、よりよい国土の活用を東北圏広域地方計画の内容に反映してほしい。